

令和元年度 長崎大学新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 在宅・地域医療実習

実習生：田崎 裕太郎

実習先：谷川放射線科胃腸科医院

実習期間：2019年8月20日～2019年9月12日

がん専門医師・歯科医師養成コース

平成19年度から開始された5年間の「がんプロフェッショナル養成プラン」に続き、平成24年度から新たな人材育成事業「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」がスタートしました。長崎大学病院では九州の他の大学と連携し、「九州がんプロ養成基盤推進プラン」を展開しています。その中にはがん地域医療や在宅医療を理解し、即戦力として活躍できるがん専門医療人を養成するプログラムがあります。在宅・地域医療実習の講座を有し、長崎在宅 Dr.ネットの医療施設において、がんを含む在宅医療全般を幅広く経験し、在宅診療の流れを習得できます。

長崎在宅 Dr.ネット

長崎在宅 Dr.ネットとは在宅医療に関して熱意のある開業医が集まってはじめてもので、病院勤務医が在宅医療を受ける希望のある入院中の患者を長崎在宅 Dr.ネットに紹介すると、そこに属する医師の中から手上げ式で在宅主治医が決まるというシステムです。かつては在宅医療を受ける希望のある患者がいても担当医が決まるまでに時間が必要となることが多かったですが、このシステムができてから現在は紹介から在宅主治医決定まで平均して0.76日となりました。このシステムにより現在、長崎県での在宅医療の件数は増加傾向であり、全国的にはまだ在宅医療のパーセンテージが低い長崎県ですが、今後は全国における在宅導入率の順位も上がってくるものと思われます。

実習内容

在宅診療を行っている医師に1日中同行し、実際に診療を行ったり、より良い医療を提供するためにはどうしたら良いかと、多職種でディスカッションを行ったりします。私は谷川放射線科胃腸科で受け入れ頂き、在宅診療を専門にされている津田先生、本田先生の訪問診療に同行し、1日10～20人の患者さんを一緒に診せてもらいました。同行してみて、改めて長崎の坂の多さを感じました。決して在宅医療が普及しやすい地理的条件とは言いつらい環境の中で、多種多様な患者を診療し、ニーズに答え、患者数も年々増加しているというのは素晴らしいことだと思います。また在宅医療実習を通じて、医療とは何かと改めて考える機会にもなりました。病気を治し、社会復帰させるだけでなく、その病気と付き合いながら、最終的には自分を肯定して死ぬる人生にしていくことも医療だと思います。患者の中には余命が1ヶ月もない方もいらっしゃいました。私の在宅実習期間中に亡くなった方

もいます。死期の近い患者とその家族に寄り添い、ゆっくりと迫ってくる死と一緒に受け入れていく、そのプロセスを間近で感じることができたのは私にとって一生の財産です。どう生きるか、と同じくらい、どう死ぬか、は大切なことだと感じました。



